

## 高知県と鹿児島県から得られたトウガタガイ科貝類 －クチヒダクチキレとツヤクチキレ－

三浦知之・三浦 渚・三浦 要

〒 880-0035 宮崎市下北方町

### Abstract

Two pyramidellid mollusk species were recorded, *Tiberia pusilla* (A. Adams, 1854) from off Cape Ashizuri, Kochi prefecture in a depth of 78 m and *T. nitidula* (A. Adams, 1860) from Amami islands, Kagoshima prefecture. The two differ from each other by the suture form, deeper and conspicuous in the former.

### はじめに

宮崎県と鹿児島県を含む日本の沿岸や海岸の底生生物の調査し、多様性の高いトウガタガイ科貝類を報告している（三浦ほか, 2025 など）。本稿では高知県と鹿児島県で採集されたトウガタガイ科クチキレガイ属の2種を報告する。本属は世界で36種知られるが（WoRMS, 2025）、本報告の2種は比較的に他種との区別が容易であり、その特徴を紹介したい。

### 材料と方法

材料は、高知県足摺岬沖の浅海および鹿児島県加計呂麻島の干潟で採集した（三浦・三浦, 2015）。得られた標本は10%海水ホルマリンで固定するか、アルコール標本として研究室に持ち帰り、解剖顕微鏡下で観察した。必要に応じ、超音波洗浄機を用いて付着物を除き、70% Alcoholに保存して、殻の形態を観察した。

### 結果及び考察

#### トウガタガイ科 Pyramidellidae Gray, 1840

#### Pyramidellinae Gray, 1840

#### クチキレガイ属 *Tiberia* Jeffreys, 1884

#### クチヒダクチキレ *Tiberia pusilla* (A. Adams, 1854) (Fig. 1)

*Obeliscus pusillus* A. Adams, 1854, p. 80, Pl. 171, Fig. 7.

クチヒダクチキレ 堀, 2000, pp. 703–704, Pl. 351, Fig. 11 as *Tiberia pusilla* (A. Adams in H. & A. Adams, 1853); 堀, 2017, p. 1106, Pl. 408, Fig. 13, as *Tiberia pusilla* (A. Adams, 1854).

**採集記録** 1986年11月1日高知県足摺岬南西沖, 32°44.1'N 132°55.7'E, 水深78 m, KT86-16 Station B-1 (1死殻)。

**形態・分布・生態** 足摺岬沖で得られた標本は小型の死殻であった。殻高2.8 mm, 殻幅1.3 mmで (Fig. 1A), 殻全体は丸みのある紡錘形である。殻幅の増大率（前層の殻幅に対する当該層の殻幅の比率）は最初の2層を除けば、いずれの螺層でも1.2–1.3程度である。胎殻は、2階で殻軸に対して150°異旋し、後生第1層より狭く、低い (Figs. 1B1–4)。後生殻は螺層5階で、殻は厚く、輝きのある白色の地色を持つ。各螺層の下部には1本の淡褐色の細い色帯があり、殻底にも1本をかるうじて確認できる (Fig. 1A)。初期層を含めて側縁は直線的で、体層がやや丸みを帯びる。縫合は明瞭なV字型の凹みが目立つ。軸壁は明瞭な2本で、外唇内面には内面の歯状突起が3個確認できる (Figs. 1A & C)。殻底には臍孔がある。

Miura, T., N. Miura & K. Miura. 2025. Records on pyramidellid mollusk species from Kouchi and Kagoshima prefectures: *Tiberia pusilla* (A. Adams, 1854) and *T. nitidula* (A. Adams, 1860). *Nature of Kagoshima* 52: 165–168.

✉ TM: Shimokitakata-machi, Miyazaki 880-0035, Japan (e-mail: miurat@miyazaki-u.ac.jp).

Received: 24 December 2025; published online: 25 December 2025; [https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_052/052-040.pdf](https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_052/052-040.pdf)

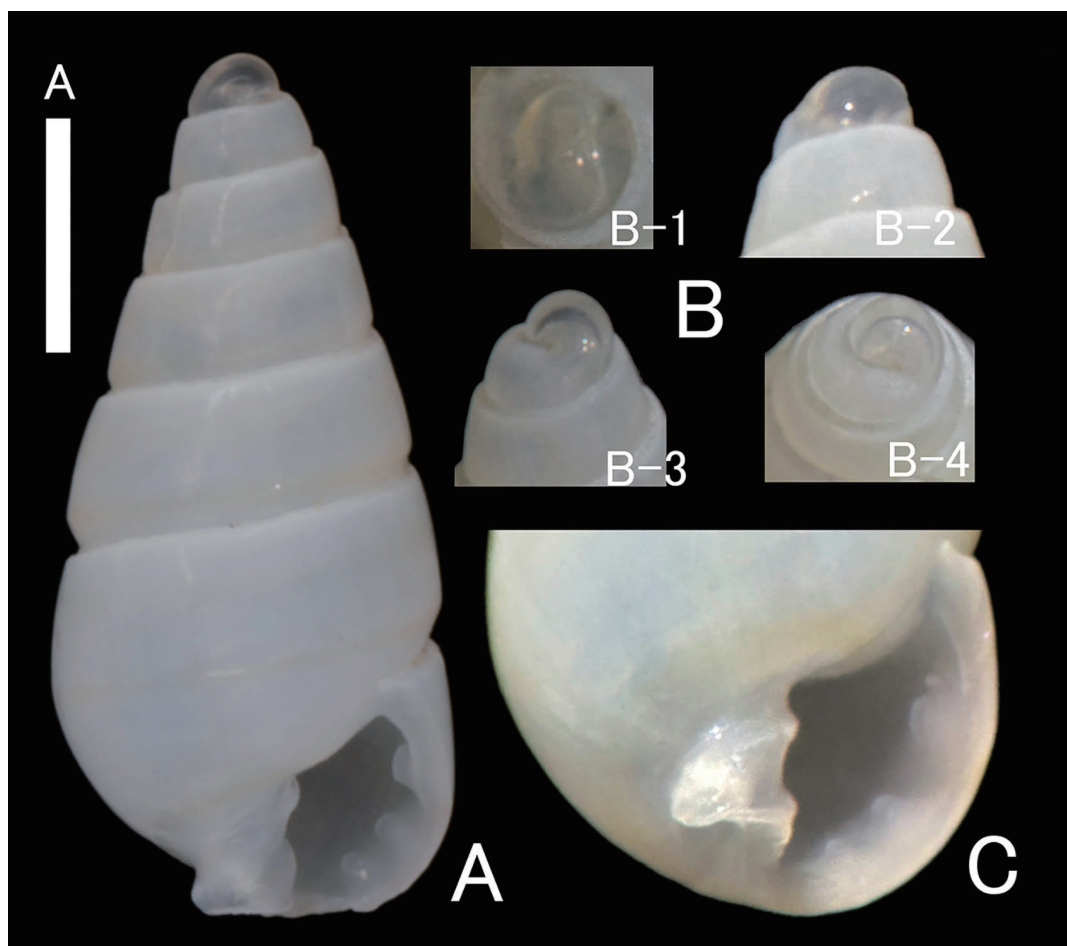


図. 1. クチヒダクチキレ *Tiberia pusilla* (A. Adams, 1854): A. 1986 年 11 月 1 日高知県足摺岬南西沖水深 78 m で採集した死殻標本、腹面；B1-4. 様々な方向から見た殻頂部（任意の拡大）；C. 殻口拡大図（外唇内面の歯状突起）。スケールは A の 1 mm を示す。  
Fig. 1. *Tiberia pusilla* (A. Adams, 1854): A. Specimen collected from off Cape Ashizuri in a depth of 78 m, on November 1, 1986, ventral view; B. Enlarged shell top, in four different angles; C. Aperture showing palatal teeth. Scale for A = 1 mm.

### ツヤクチキレ *Tiberia nitidula* (A. Adams, 1860)

(Fig. 2)

*Symnola nitidula* A. Adams, 1860, p. 335, Pl. 171, Fig. 20.

ツヤクチキレ 堀, 2017, p. 1106, Pl. 408, Fig. 12 as *Tiberia nitidula* (A. Adams, 1860).

*Tiberia nitidula* Higo & Goto, 2001, p. 118. photo of BMNH 1878.1.28.306

ST (syntype) as *Tiberia nitidula* (A. Adams, 1860)

**採集記録** 2008 年 3 月 9 日 加計呂麻島知之浦 (1)；2009 年 3 月 13 日奄美大島役勝川 (?3 幼貝)。

**形態・分布・生態** 加計呂麻島知之浦で採集

された生体標本は、殻高 4.8 mm、殻幅 2.1 mm であった (Figs. 2A & B)。殻は、大きく丸い体層をもち、全体では紡錘形になる (Figs. 2A & B)。殻幅に対する殻長の比は 1.3 であり、第 3 層以降の殻幅の増大率は、1.3–1.5 であり、丸く短い。胎殻は、2 階で殻軸に対してほぼ 100° 異旋し、後生第 1 層より狭く、低い (Fig. 2C)。後生殻は、螺層 6 階で、殻が厚く、表面は平滑で光沢がある。色帯は見られなかった。初期層を含めて、側縁はやや丸みを帯び、全体的にも曲線的で、縫合も浅い。殻口は狭い扇形で、直線的な内唇と殻底のラインが角張り、外唇は円弧状である。軸壁は非常に強い 1 本と前方のやや弱く明瞭な 1 本を確認で

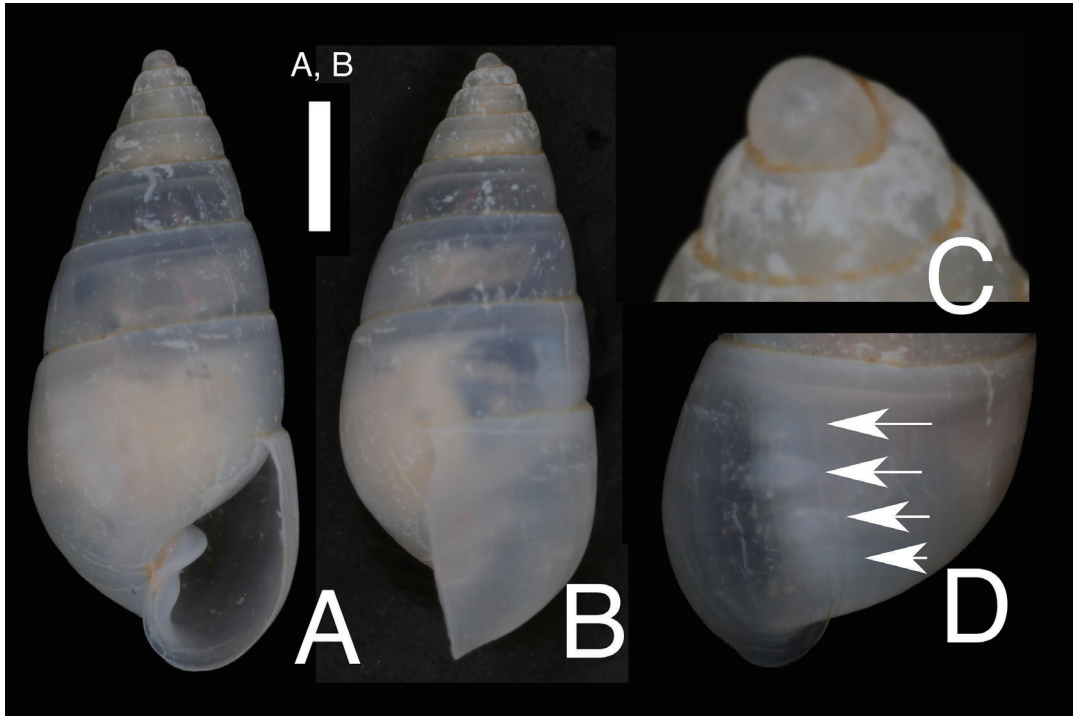


図2. ツヤクチキレ *Tiberia nitidula* (A. Adams, 1860): A & B. 2008 年 3 月 9 日 加計呂麻島知之浦で採集された 1 生体標本, 腹面と側面; C. 原殻の拡大図; D. 体層背面, 矢印は透けて見える殻内面の歯状突起。スケール A, B は 1 mm を示す。

Fig. 2. *Tiberia nitidula* (A. Adams, 1860): A & B. Specimen collected from Kakeroma island, Kagoshima prefecture, on March 9, 2008, ventral & lateral views; C. Enlarged protoconch; D. Dorsal side of body whole showing inner tooth-like ribs (allows) through the shell. Scales for A & B = 1 mm.

きる (Fig. 2A). 外唇内面には内面の歯状突起が 4 個確認できる (Fig. 2D). 殻底に臍孔はない。生きている状態で軟体部を確認することができなかった。

奄美大島役勝川から得られた標本は、殻長 2 mm 程度であり、小さく同定は結論できないが、2 本の軸壁、平滑な殻表などから同種の幼貝である可能性も残された。

表 1. クチキレイ属 *Tiberia* Jeffreys, 1884 の 6 種に関する形態の比較。

Table 1. Morphological features of 6 Japanese species of the genus *Tiberia* Jeffreys, 1884.

分類群	概形	殻の厚さ	縫合	軸壁第 2 歯	内面歯状突起数	原殻 (傾き)	眼の間隔 (x 眼幅)
ハナシクチキレ <i>Tiberia</i> sp.	円錐	薄い	極めて浅い	とても弱い	0	135°	3.5
クチキレガイ <i>T. pulchella</i> (A. Adams, 1854)	円錐	やや厚い	浅い	とても弱い	2	135°	?
ドウンケルクチキ <i>T. dunkeri</i> (Dall & Bartsch, 1906)	紡錘	やや厚い	明瞭	極めて弱い	2	135°	5
イロオビクチキレ <i>T. dentata</i> (Yokoyama, 1920)	円錐-紡錘	厚い	浅い	やや明瞭	3-4	135°	4
クチヒダクチキレ <i>T. pusilla</i> (A. Adams, 1854)	紡錘	厚い	明瞭	明瞭	3-4	150°	?
ツヤクチキレ <i>T. nitidula</i> (A. Adams, 1860)	紡錘	厚い	浅い	明瞭	4	100°	?

クチキレガイ属 *Tiberia* Jeffreys, 1884 について、三浦・三浦 (2025a, b) および本報で紹介した日本産 6 種の形態的特徴をまとめた (表 1)。本属の各種は、貝殻の概形、殻の厚さ、縫合の凹み方に特徴が現れる。軸壁の 2 歯の強さも特徴的で、個体によっては観察が難しくなるため、注意が必要である。一般に軸壁が 1 歯の場合は、第 2 歯の位置が多少湾曲しているように見えるが、本属の観察の難しい標本でもその位置は窪まず、やや直線的に見える。一方、本属とされる 6 種の原殻の傾きに大きな違いがあることがわかり、形態的に同属としての扱い方に問題が残った。将来的にはこれら 6 種の遺伝的特徴が解明されることに期待したい。

## 引用文献

- Adams, A. 1854. Monographs of the genera *Eulima*, *Niso*, *Leiostraca*, *Obeliscus*, *Pyramidella*, and *Monoptygma*. In G. B. Sowerby II (ed.), *Thesaurus cockylorum, or monographs of genera of shells*. Vol. 2 (15): 793–825.
- Adams, A. 1860. On some new genera and species of Mollusca from Japan. *Annals and Magazine of Natural History*. (3) 6: 331–337.
- Gray, J. E. 1840. Synopsis of the contents of the British Museum, 42nd ed., 370 p.
- Higo, S., Callomon, P. & Goto, Y. 2001. Catalogue and Bibliography of the Marine shell-bearing Mollusca of Japan. Elle Scientific Publications, Osaka. 208 pp.
- 堀 成夫. 2000. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 1105–1123, pls. 408–422.
- 堀 成夫. 2017. トウガタガイ上科. in 奥谷喬司編集「日本近海産貝類図鑑」, 東海大学出版会. 平塚. pp. 702–729, pls. 350–363.
- Jeffreys, J. G. 1884. On the Mollusca procured during the 'Lightning' and 'Porcupine' expeditions, 1868–70. (Part VIII). *Proceedings of the Zoological Society of London*. 1884: 341–372, pl. 26–28.
- 三浦知之・三浦 要. 2015. 加計呂麻島の海岸湿地に生息する甲殻類と貝類の記録. *Nature of Kagoshima*. 41: 209–222.
- 三浦 知之・三浦 渚. 2025a. 愛知県和歌浦で採集されたクチキレガイと宮崎県など他海域から得られたトウガタガイ科の類似種について. *Nature of Kagoshima*. 52: 157–160.
- 三浦 知之・三浦 渚. 2025b. 愛知県和歌浦で採集されたドウンケルクチキレと宮崎県から得られたトウガタガイ科の類似種について. *Nature of Kagoshima*. 52: 161–164.
- 三浦 知之・三浦 渚・三浦 要. 2025. 宮崎県と愛知県で採集されたトウガタガイ科貝類 4 種 – トウガタガイ, カズマキクチキレ, オオクチキレ, タケノコクチキレ. *Nature of Kagoshima*. 52: 93–96.
- WoRMS. 2025. World Register of Marine Species. <<http://www.marinespecies.org>> (accessed 2025.12.14)